

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 6月25日 10:44 AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,600~40,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 36,000~39,600 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500~18,000

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000~161.350 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578~108.350

(おしらせ)都合により 6月28日(金)の本レポートを休載致します。次回号は7月2日(火)に更新予定です。

エリオット波動とは

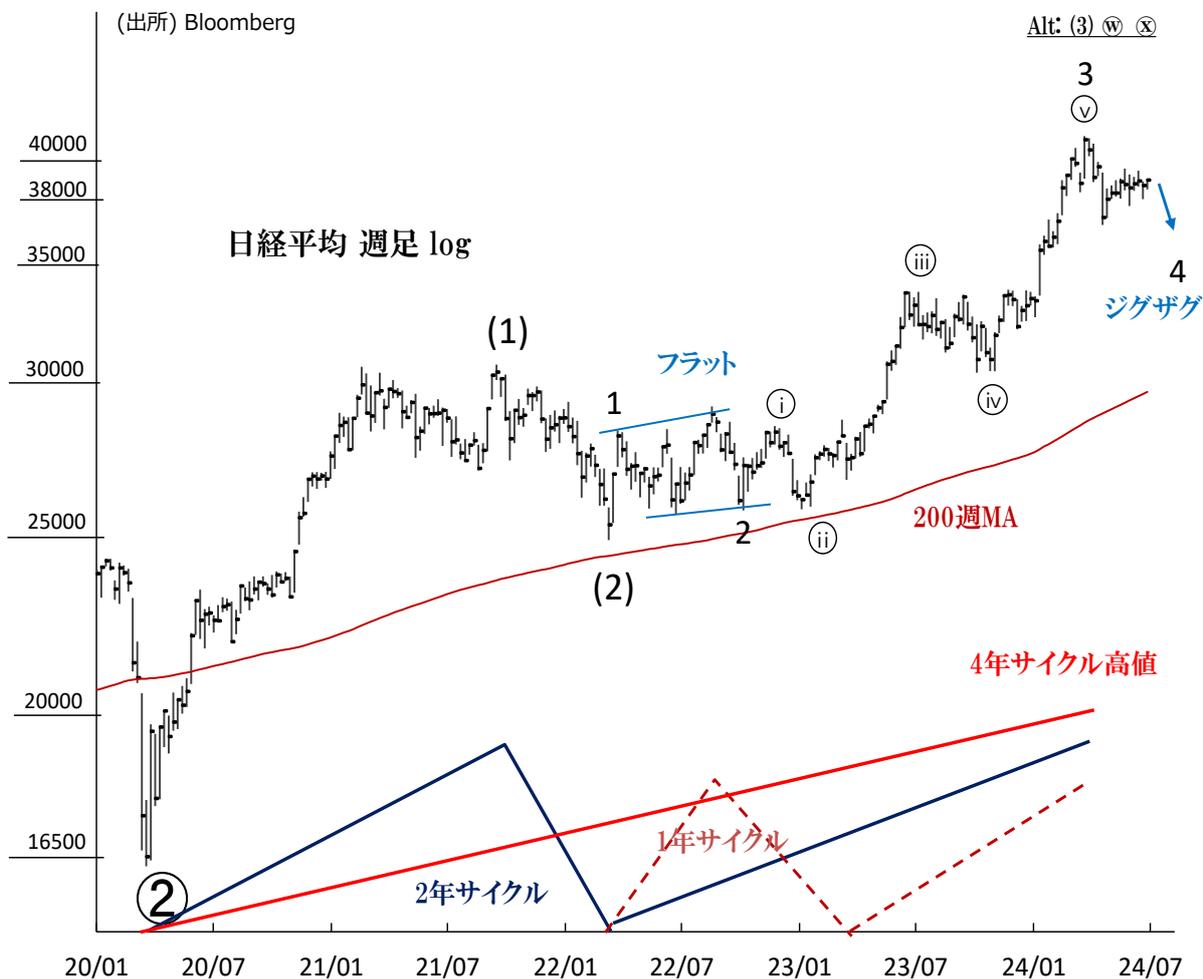
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波(合計8つの波)で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



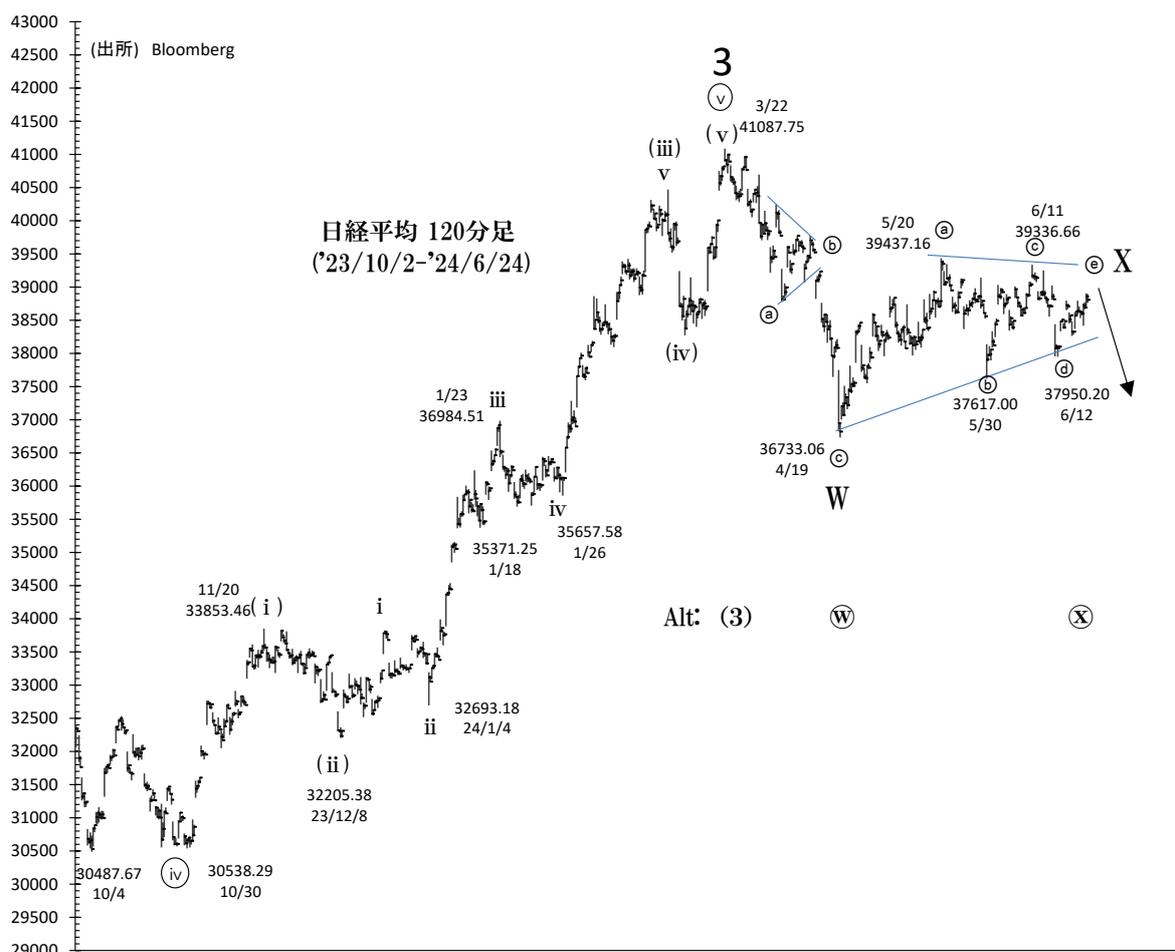
【週足・エリオット波動分析】

41,087 円(3/22 高値)から[(ダブル)ジグザグ]による調整が進行中とみられます。その波動の位置付けとしては、インターミディエイト級第(3)波におけるマイナー級第 4 波、あるいはインターミディエイト級の第 (4) 波と思われます。

TOPIX、コア 30 など他チャートも検討した結果、「マイナー級第 4 波による調整」という波動カウントが、もっとも相応しいとみています(もちろん今後の展開次第で適宜、カウントを見直していきます)。

今は 4 年サイクル底へ向けた下げが進行中です。底打ち時期は 7 月～11 月※とみています。

※4 年サイクル(48 カ月)の伸びしろ(オーブ)は 8 カ月(48 カ月の六分の一)です。20 年 3 月から 4 年 8 カ月が経過する時点が今年 11 月です。



【日経平均 時間足・エリオット波動分析】

3月高値からの下げは、[ダブル・ジグザグ](W-X-Y)編成とみられます。

W波[ジグザグ]…41,087円(3/22高値)→36,733円(4/19安値)

X波[トライアングル]…36,733円(4/19安値)→?円

X波・トライアングルは②～④波から成り立ち、37,950円(6/12安値)からは④波による上昇とみられます。④波の想定レンジは38,800円～39,000円ですが、6月24日の高値(38,905円)はレンジ内で付けたものです。

この④波を以てX波は完成し、そこからは再び[ジグザグ]によるY波下げが想定されます。37,950円(6/17安値)を下抜くと、Y波入りの可能性が高まります。

なお④波が39,336円(6/11高値)を上抜くと、トライアングル説は否定され、別の見方が必要になります。

この場合のオプションは、「37,950円(6/12安値)からの上昇はX波における④波」というものです。この見方によると、④波は4万円を一時的に回復する可能性があります。

NYダウ



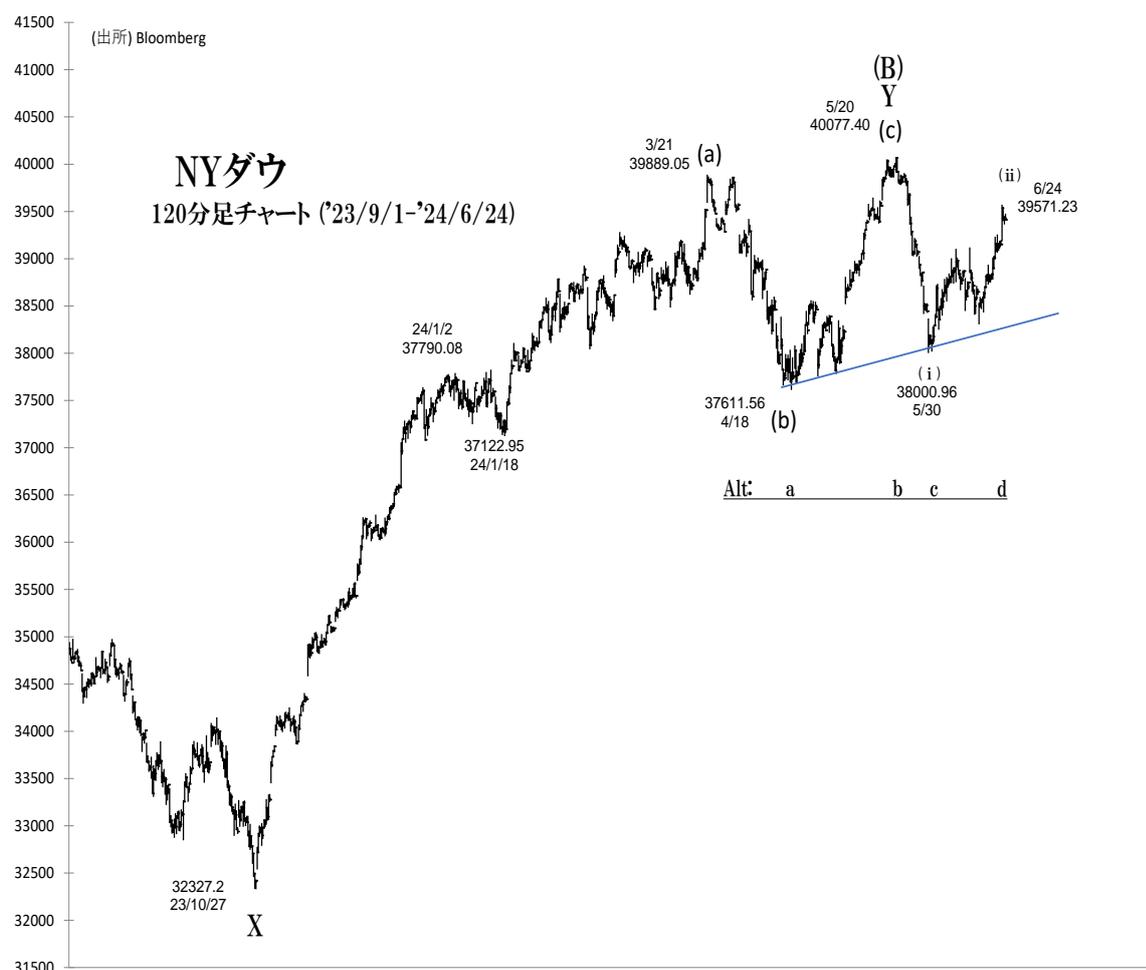
【NYダウ日足・エリオット波動分析】

NYダウは22年1月高値(36,952ドル)から、プライマリー級④波を展開中とみています。22年10月からの上昇は④波における(B)波であり、それは「不規則天井(イレギュラー・トップ)」です。(B)波の後に続く(C)波の下落スケールは、(A)波の下落(22年1月～22年10月)に匹敵するか、あるいは、より大きなものになるでしょう。

22年10月安値(28,660ドル)を起点とする④波中(B)波の上昇は、ダブル・ジグザグ[W-X-Y]。そのうち、23年10月安値(32,327ドル)からの上昇はY波ジグザグ[(a)-(b)-(c)]です。

そして、このY波は40,077ドル(5/20高値)で天井を打ち、④-(C)波による下落が始まったかもしれません。この見方は37,611ドル(4/18安値)を下抜くことにより強められ、NYダウは当面、200日MA※を目指し下落していく展開が想定されます。

※200日MA…37,105ドル(6/24)



【NY ダウ時間足・エリオット波動分析】

40,077ドル(5/20 高値)から 38,000ドル(5/30 安値)までは第(i)波による下落、そこから第(ii)波によるリバウンドと位置付けられます。

6月24日には一時 39,571ドルまで上昇し、黄金比の節目[39,587ドル](5月高値からの下げに対する76.4%戻り)をほぼ達成しました。

第(ii)波リバウンドは終わったか、終わりつつあるようです。

38,000ドルを下抜くと、ネックラインから下入れ開始となり、第(iii)波の下げに入ったとみられます。

第(iii)波に NY ダウは、短期的にも 37,611ドル(4/18 安値)を試すでしょう。

一方 37,611ドルが維持される限り、上値追いのチャンスは引き続き残っています。

3月高値からの(b)波が「ランニング・トライアングル」なら、38,000ドル(5/30 安値)からはトライアングル中 d 波に位置付けられます。この場合、来る e 波の下げによっても 38,000ドルは維持され、40,077ドルを上抜くような、「最後の上昇」があるでしょう。

ナスダック



【ナスダック総合指数日足・エリオット波動分析】

22年12月からの上昇は、プライマリー級第④波における(B)波に位置付けられます。(B)波終了後には(C)の下落がスタートしますが、(C)波によりナスダックは12,500~10,000へ下落する可能性があります。

④-(B)波による上昇は[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]編成です。今年4月安値(15,222)からは、Y波(a-b-c)中c波による上昇とみられます。

そしてc波完了に必要な、(i)波~(v)波の五つの波動は、17,936(6/20 高値)までにすべて揃っています。

次の注目ポイントは、6月11日~12日のギャップ(17,345-17,490)埋めです(ギャップ埋めは下落トレンド入りの証左となります)。

もっともSOX指数は、同じ日のギャップ埋めをはたしています。ナスダックの上昇トレンド終了の可能性は高い、とみられます。



【フィラデルフィア半導体株指数(SOX 指数)・エリオット波動分析】

22年1月高値(4068)以来のパターンは[エキパンディッド・フラット]、あるいは[ランニング・フラット]と想定されます。どちらのパターンも内部構造は(A)↘-(B)↗-(C)↘です。

6月24日のSOX指数は3営業日続落。この日は3%安となり、終値(5371)はこの日の安値に近いものでした。これにより6月11日~12日のギャップ(5374-5452)が埋まり、それが上昇トレンド最後の”exhaustion gap”だったという、強い感触が得られました。

指数ウェイト最大のエヌビディアは、3営業日の下げ率が13%(ザラバでは16%超え)となり、調整局面に入りました。ブルームバーグ記事は、過去3日間の下げで、エヌビディアの時価総額が約4300億ドル(約68兆6300億円)消失した、と伝えています。

SOX指数は、5792(6/18高値)から(C)波による下落トレンドに入った可能性があります。

短期的な下値メドとして妥当なのは[5343-4988]、レツサーディグリー第(iv)波の領域です。5000水準を下回った後、想定される下値レンジは[4400-3900]です。

米ドル/円



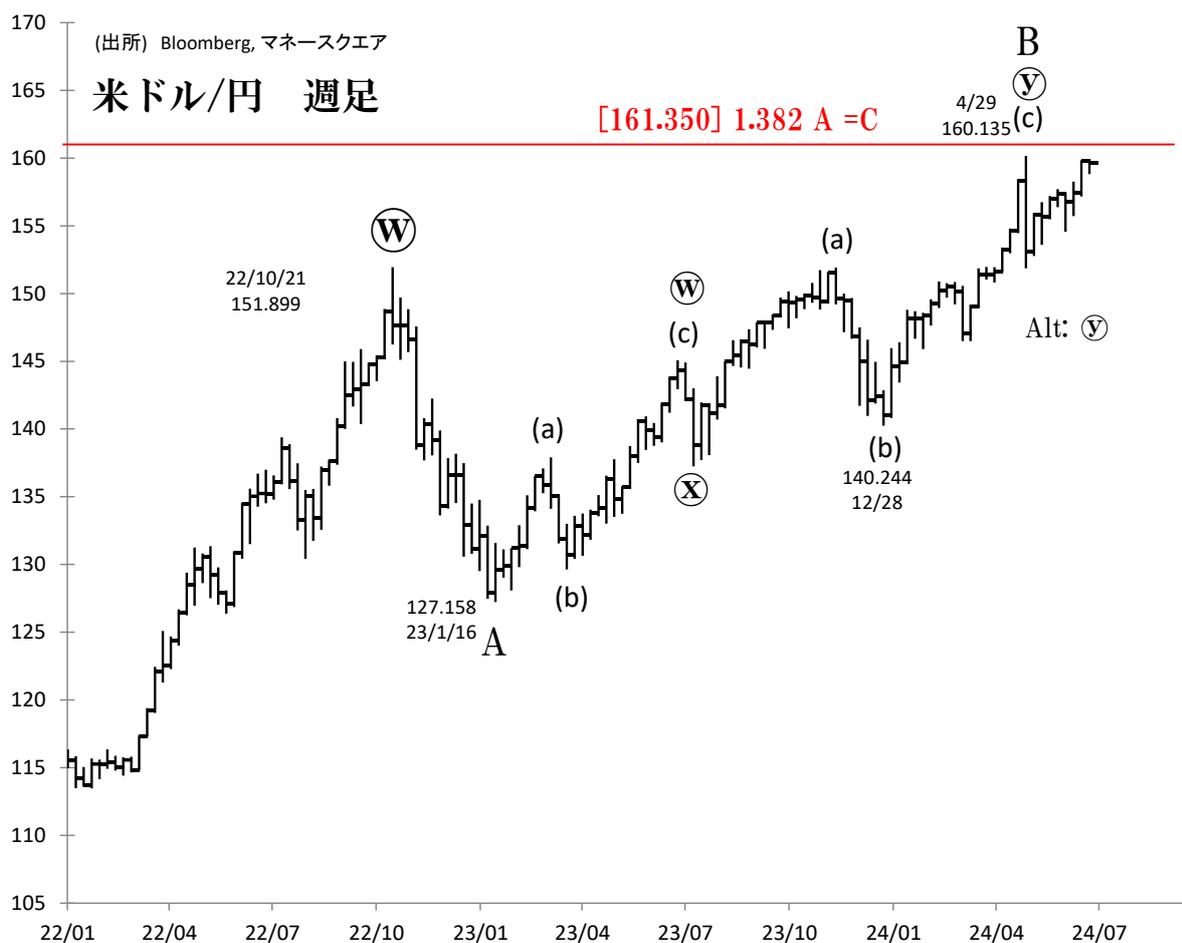
2011年10月の75.570円以来の(A)-(B)-(C)[ジグザグ]による円安Ⓜ波は、151.899円(22/10/21)を以て終わり、そこから2028年頃までレンジ相場を形成していく、というのが筆者による米ドル/円(ドル/円)の基本観です。直近の34年ぶりドル高・円安も基本的には、レンジ相場内の値動きの一環です。

【月足・エリオット波動分析】

22年10月(151.899円)以来、長期円安トレンドにおける中間波・Ⓧ波が進行中です。
このⓍ波は2028年頃まで大きなレンジ相場(トライアングル、フラットなど)を形成するとみています。

ドル/円は4月29日の160.135円を以て、8年サイクル高値※を付けた可能性があります。
日柄面ではちょうど34年ぶり(フィボナッチ数)に90年4月高値(160.360円)に「里帰り」を果たし、水準面では第(Ⅲ)波中レッサー・ディグリー第IV波の高値に一致しています。

※およそ8年間隔でドル/円高値が巡る『8年サイクル』を振り返ると、過去もっとも長いサイクル期間は106カ月(98年8月～07年6月)でした。前回サイクル高値(15年6月)から106カ月経過時点が24年4月です。なお目先160.135円を上抜くようなら8年サイクル高値は後ずれしますが、オープン(誤差期間)を加味しても、ドル/円は24年10月までに8年サイクル高値を付ける見込みです。



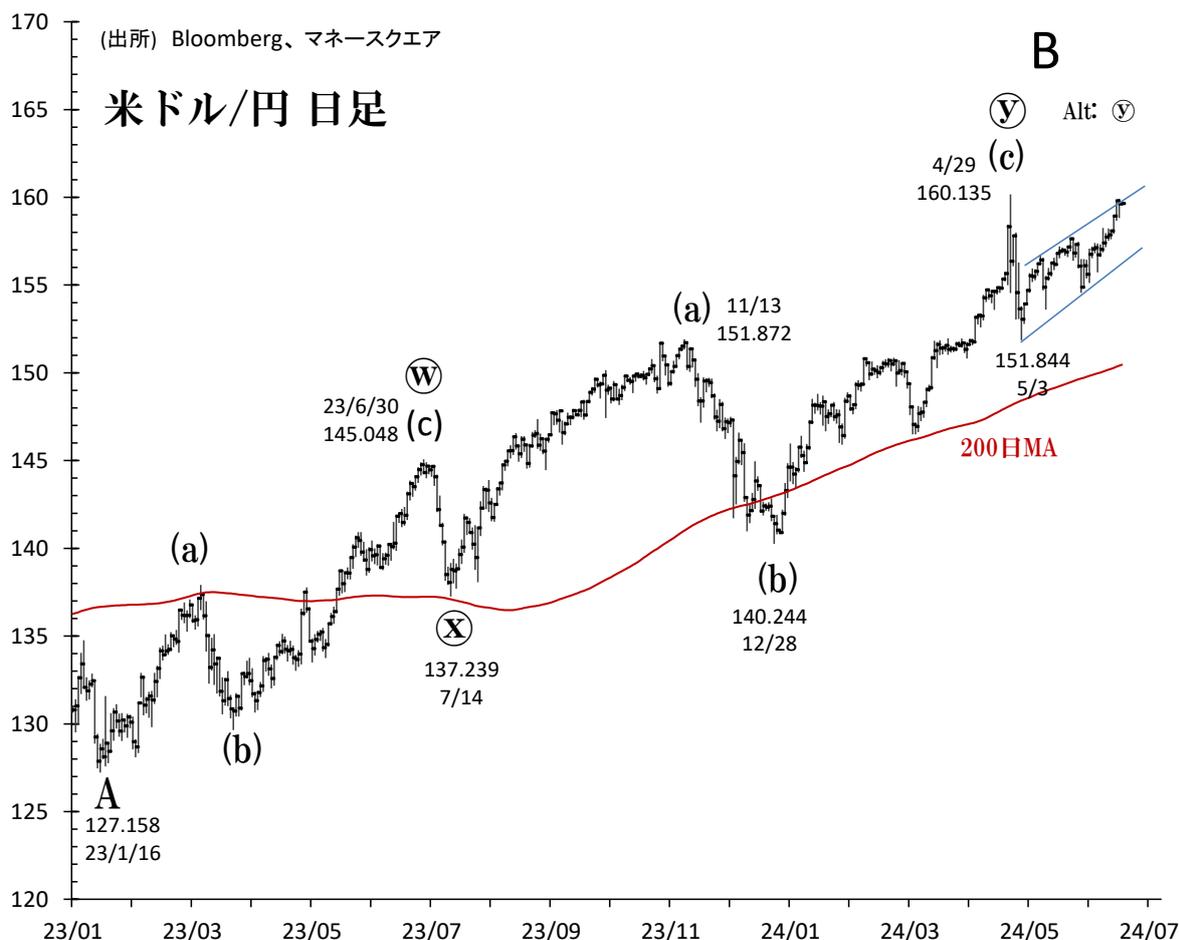
【週足・エリオット波動分析】

22年10月(151.899円)からのA(↘)-B(↗)-C(↘)編成において、23年1月(127.158円)からはB波に位置付けられ、それは151.899円を超えて不規則天井(イレギュラー・トップ)を形成しています。

160.135円をB波終点とみなすと、B波の長さはA波に対し1.333倍になります。B波はA波の1倍超～1.382倍の範囲内で通常は決まりますが、今回のB波もノーマルな範囲内に収まっています。ちなみにA波の1.382倍ならB波トップの目標値は161.350円です。

160.135円(4/29)からC波による下落局面(ドル安・円高)が進行中とみられます。

このC波は今後140円～135円を試す可能性がある、と筆者はみています。



【日足・エリオット波動分析】

23年1月以来のB波によるドル/円上昇は、[ダブル・ジグザグ]編成で160.135円(4/29)を以て完了したとみられます。

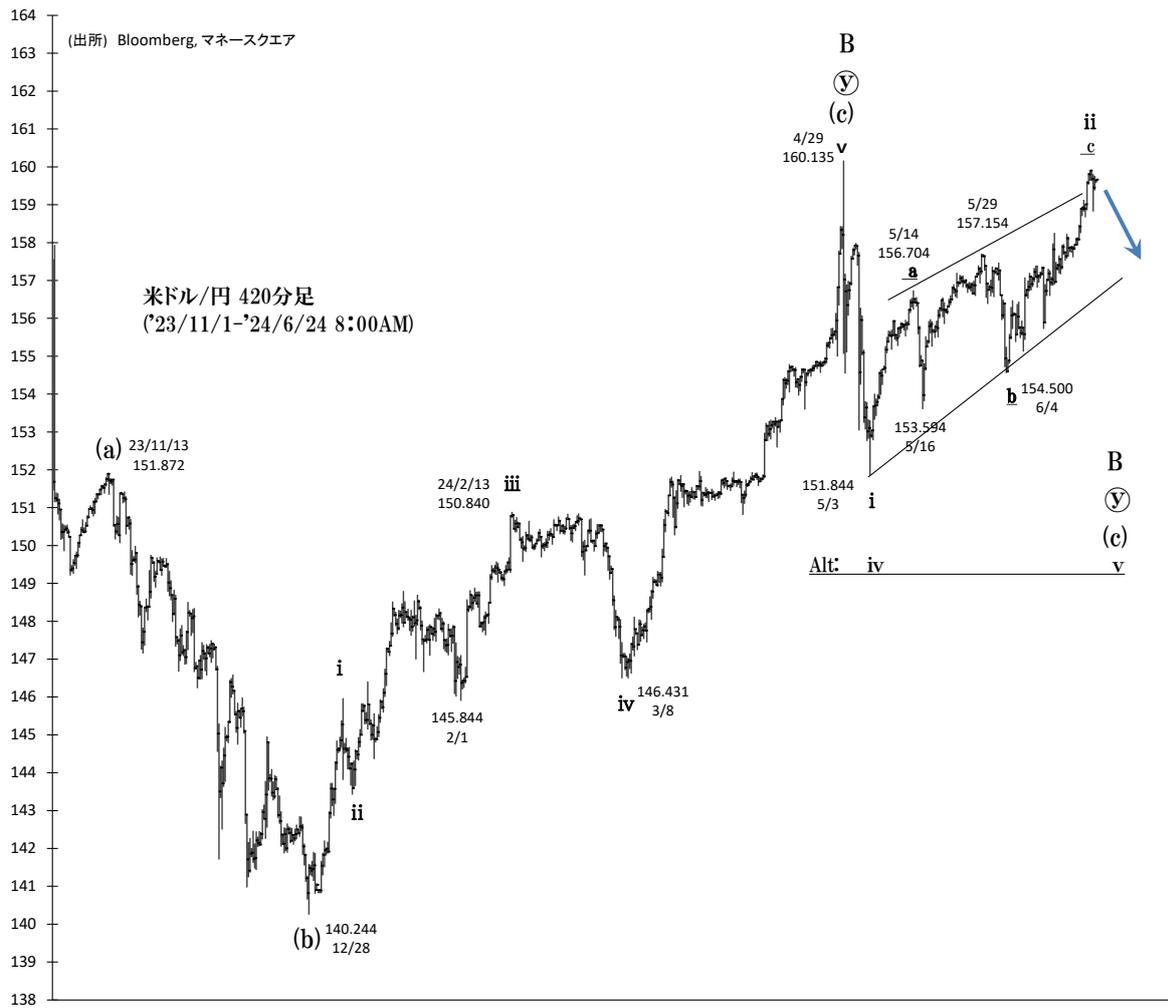
あるいは、151.844円(5/3)から最後のドル高・円安であり、前出の[161.350円]を試すかもしれません。

このように短期の見直しにはオプションがありますが、筆者の大局観は変わりません。

4月に入ってからの急激なドル/円上昇(152円⇒160円)は、日米実質金利差を反映しておらず、専ら投機によってもたらされました。『円安プチバブル』とも呼べる過剰な円安ですが、それも今後は修正されていくと思われます。

[日米実質金利差による推計値]…148.700円

筆者は、米長期金利の大幅な低下⇨大幅な米ドル安を見込んでおり、そうなれば日米実質金利差の縮小に沿ってドル/円は150円を下回っていくでしょう。



【時間足・エリオット波動分析】

160.135 円(4/29)から 151.844 円(5/3)までの下落(円高)は第 i 波(リーディング・ダイアゴナル)、そこから第 ii 波の戻り局面に位置付けられます。

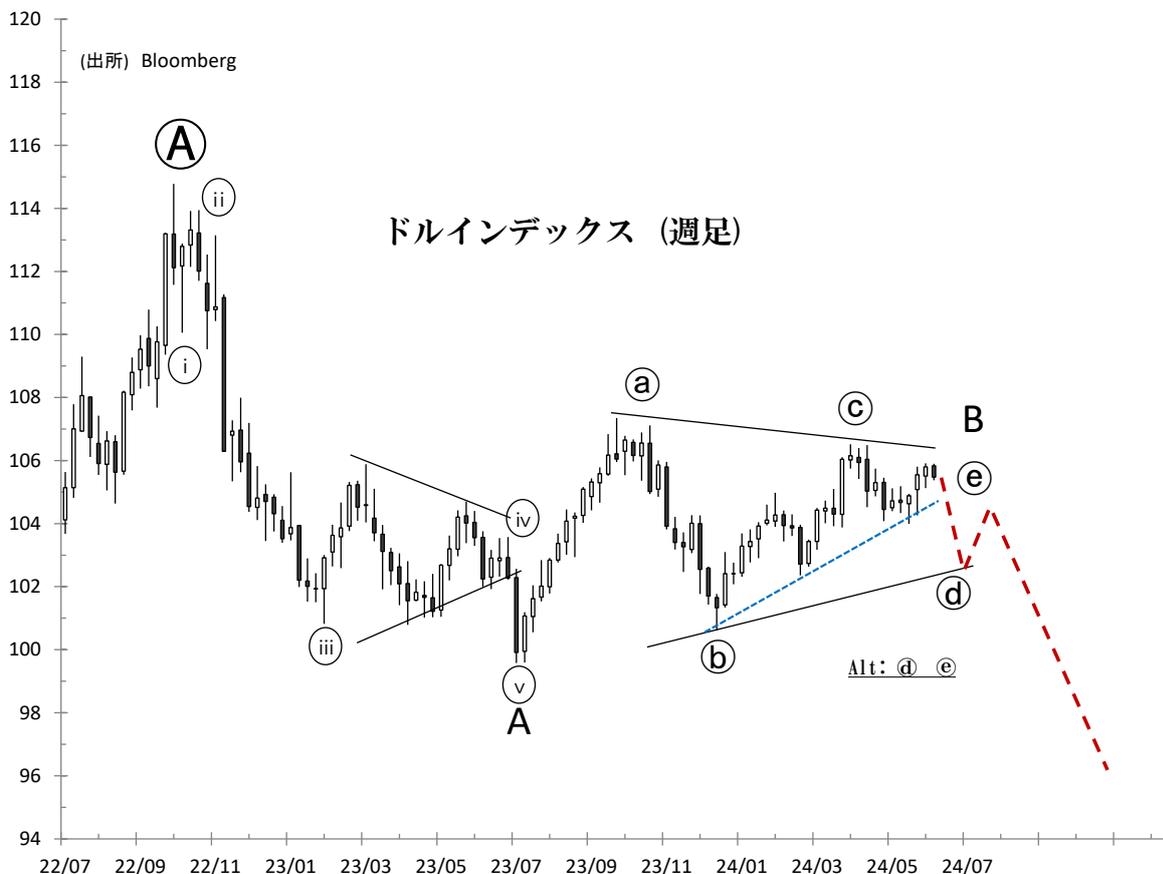
第 ii 波は[ジグザグ](a-b-c)編成、154.500 円(6/4)からは c 波によるドル高・円安とみられます。

6 月 24 日には 1 ドル=160 円に急接近しました。第 ii 波終点はおそらくこの辺りであり、まもなく第 iii 波によるドル安・円高が始まるでしょう。

一方、151.844 円からのドル高・円安が[エンディング・ダイアゴナル]による第 v 波であるなら、ドル/円はいったん 160.135 円を上回るでしょう。その動きを以て 23 年 1 月以来のドル高・円安 B 波は完成することになります。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足・エリオット波動分析】

22年9月高値(114.778)以来、ドルインデックスはA(↘)-B(↗)-C(↘)編成による下落基調にあります。23年7月安値(99.578)を起点とするB波は、トライアングル(a-b-c-d-e)を形成中であり、足元は㊦波のドル安局面が進行中です。

おそらく、今後の数週間以内にB波は完成し、その後に到来するC波によって、ドル指数は23年安値(99.578)を大きく下回るでしょう。

なお派生的な見方として、「トライアングルはほぼ完成し、まもなくC波によるドル安が始まる」というものがあります。この見方によると、106.517(4/16)からの㊦波は103.993(6/4)で完了し—㊦波の下げ幅がかなり小さい印象はありますが—今はトライアングル中最後の㊦波が終わりつつある、ということになります。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
